

自然系ジュニア学芸員 2012年の実習活動（1）



写真1 収蔵室の温度湿度管理

標本を高湿度によるカビ等から守るために、毎日温度と相対湿度を測定して記録をし、異常がないかをチェックする。



写真2 収蔵室の除湿器の排水

収蔵室内の湿度を低く保つために、家庭用除湿器を配置して、除湿を行う。毎日、タンクにたまった水をバケツで排水する。



写真3 ツルグレン装置用土壌の管理

2階常設展示で肉眼では観察しにくい土壌生物を展示するため、土壌を耕して、ダニなどの土壌生物が落葉落枝を分解して増えるように耕す。



写真3 ツルグレン装置用土壌の管理

耕して管理している土壌を、展示用に採集して持っていく。



写真5 自動撮影装置の管理

自動撮影装置を使って、シカ、タヌキ、テン、キツネなど科学館周辺の野生生物生息調査を行う。



写真6 里山の動物の足跡調査

科学館周辺に生息する野生動物の足跡やフン等のフィールドサインを探し、調査する。足跡に石膏を流して足型の採取に今後挑戦予定

自然系ジュニア学芸員 2012年の実習活動（2）



写真7 鳥本はく製調査1

姫路科学館の鳥類標本収蔵数は国内3番目の多さ。本はく製と仮はく製があり、写真では本はく製のデータを調べているところ。



写真8 鳥標本展示解説案作成

収蔵本はく製は約700羽あり、それらを用いて各講座生が、自分でテーマを決めて、展示案と解説シート案を作成する。



写真9 展示解説案のまとめ

講座生同士が自分の鳥本はく製の展示テーマや解説案などを発表して、意見交換やこんなアイデアがあるとか、ゼミを行う。



写真10 標本の防腐処理

ドラフトチャンバーの中で、ヤシガニにシリンジで10%ホルマリン溶液で注入し、標本として腐敗しないように固定しているところ。



写真11 収蔵室内の標本棚ラベルの作成

収蔵室内の標本棚にアドレスを付けるために、講座生がチームワークで協力して、棚番号のラベルを作成しているところ。



写真12 標本棚ラベルの貼り付け

講座生が協力して作成した棚番号ラベルを、分担を自分たちで話し合っ、作業をしているところ。

自然系ジュニア学芸員2012年の実習活動(3)



写真13 きのこ標本調査1

講座生がパディを組んで、標本ラベル読み上げ係と、記録係をやって、きのこ標本調査を行っているところ。



写真14 きのこ標本調査2

こちらもきのこ標本調査を行っている、違うパディ。



写真15 ジオラマ用きのこ土台作成1回目1

7月の姫路の雑木林のジオラマを常設展示している。そこにきのこを4種配置するために土台を2チームになって作っているチームA。



写真16 ジオラマ用きのこ土台作成1回目2

こちらはチームB。ボンドを塗る係、土を塗布する係、乾かす係と、作業手順を考えて、手早く綺麗に作れるよう講座生自身で考えている。



写真17 ジオラマ用きのこ土台作成2回目1

1回だけの土の塗布では十分には付かないので、翌月に2回目の土の塗りつけで、仕上げる。3パディに分かれて実習した。



写真18 ジオラマ用きのこ土台作成2回目2

自然に興味がある講座生同士が協力して、展示物の作成をしている。率先してやる姿勢や協力することが大事だと講座生が感じていた。

自然系ジュニア学芸員 2012年の実習活動（4）



写真19 ジオラマ用きのこ標本作成1

自分たちで作った土台に、バディで、きのこを取り付ける。より自然に発生しているように見えるよう、落葉を付けたりする。



写真20 ジオラマ用きのこ標本作成2

他のバディの出来具合が気になったり、詳しい講座生が教えたり、自分たちで考え、工夫しながら、実習に取り組んでいる。



写真21 ジオラマにきのこ標本の配置1

閉館後に常設展示のジオラマへ、講座生が作成し完成させたきのこを配置する。きのこの名前が分かるように札を付ける作業をしている。



写真22 ジオラマにきのこ標本の配置2

講座生があらかじめ相談しレイアウト計画した場所を皆で確認しながら自分たちが作成した標本を配置。周りを落葉で隠し自然な様子に。



写真23 自然のお話会での実習報告会1

話の構成や写真、話す順番などを受講生同士で話し合って決めて、一年間を通じて実習してきた内容を、自然のお話会で来館者の前で発表した。



写真24 自然のお話会での実習報告会2

講座生の発表が終わった後に、色々な質問に答えたり作成した標本について説明したりして、一年の成果を積極的に伝えようとしていた。

自然系ジュニア学芸員 2012年の実習活動（5）



写真25 凍結乾燥器で標本作成実習1

凍結乾燥器でフリーズドライにしたきのこ標本を取り出す講座生。普段触ることのない機器に最初は戸惑うも、積極的に挑戦している。



写真26 凍結乾燥器で標本作成実習2

フリーズドライとなったきのこ標本。凍結乾燥瓶から取り出すのに細心の注意。他の講座生も注目。残念ながら途中で柄が折れた。



写真27 兵庫きのこグループスライド会1

2月に行われた兵庫きのこグループのスライド会で、講座生が1年間取り組んできたきのこに関する実習について発表をした。



写真28 兵庫きのこグループスライド会2

講座生の一人0君。彼は兵庫県内では初となる白トリュフの仲間を姫路市内で発見し発表。その発見は、新聞などでも大きな話題となった。



写真29 兵庫きのこグループスライド会3

この講座できのこ初めて興味をもち、夏の自由研究で自宅周辺に発生するきのこを調査した講座生最年少のMさん。地道な調査で大人も驚き。



写真30 きのこの野外調査と観察会運営補助

レフ板を自分たちで作成し、きのこについて事前に調べてきて、野外できのこの観察会と調査・記録。観察会の運営の補助も行った。